

2025年（令和七年） 6月13日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

当週（6月5日～11日）の国際石油市場は、米中貿易協議への期待と合意成立、米国イランの核開発交渉の難航、米国経済指標の堅調さを背景に、堅調に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、6月5日反発の63.37ドルで始まり、9日まで3営業日続伸の65.29ドルとなり、10日は反落したが、11日は大きく反発し68.15ドルと2か月ぶりに高値60ドル台後半で終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（7月渡し）も、前週（5月29日～6月4日）は63.10～65.30ドルの範囲で推移したが、当週は、6月5日64.00ドル、6日64.50ドル、9日65.80ドル、10日66.80ドル、11日66.10ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（5月29日～6月4日）142.83～146.05円の範囲で推移したが、当週は、6月5日142.73円、6日143.76円、9日144.90円、10日144.71円、11日144.94円だった。

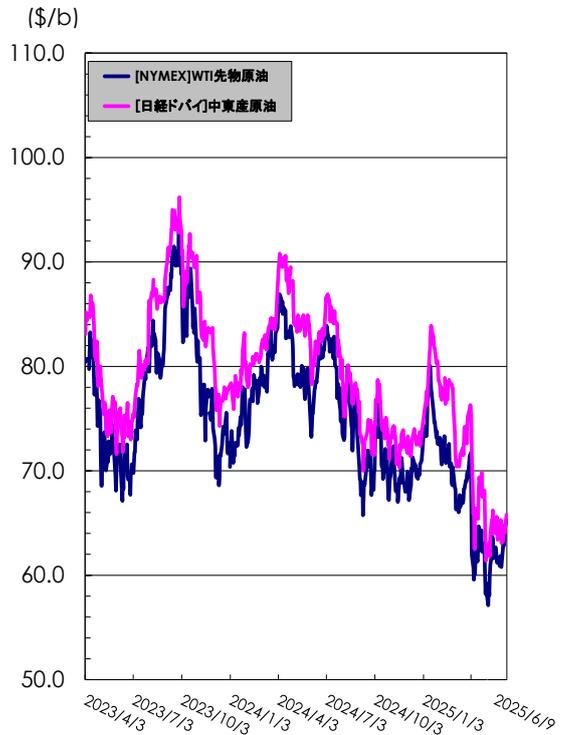
財務省が6月9日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、5月中旬の原油輸入平均CIF価格は68,101円で前旬比

1,070円安、ドル建てでは75.26ドルで前旬比2.09ドル安、為替レートは1ドル/143.86円。

そのような中で、6月9日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比2.1円安、軽油も同2.0円安、灯油は同15円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は172.2円だった。

6月12日～18日、定額化4週目の燃料油補助金の支給額は、ガソリン・軽油の場合10.0円（加算分0.6円＋前週9.4円）、灯油・重油の場合5円（補助上限）となった。

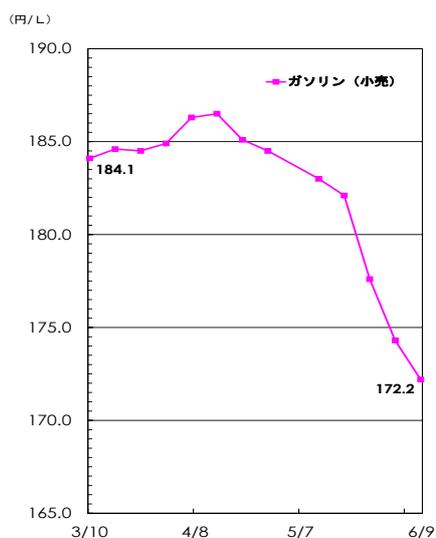
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/1～6/7	2,271 ▲170	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	65.6 ▲4.9	▲-
	原油在庫量 (千kl)	6/7	12,140 ▼206	▲-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	6/9	65.80 ▲2.60	▼-14.3
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/9	65.29 ▲2.77	▼-12.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	75.26 ▼2.09	▼-13.66
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	68,101 ▼1,070	▼-18,850
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	143.86 ▼1.69	▲11.61
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/9	145.90 ▼1.27	▲12.11



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	6/7	1,943 ▲ 44	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/3 ~ 6/9	75.4 ▼ -7.4	▼ -7.6
価格	(TOCOM/中部)	6/9	70.0 ▼ -4.0	▼ -10.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/9	172.2 ▼ -2.1	▼ -2.6

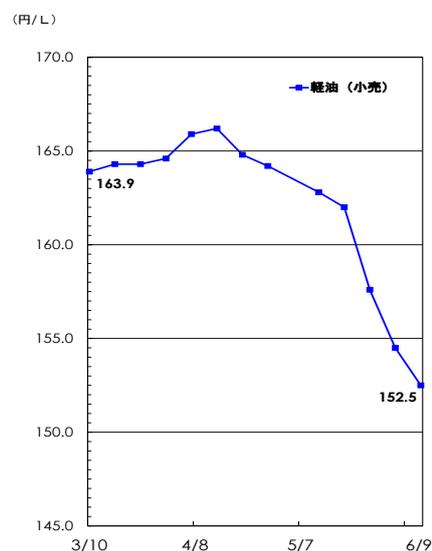
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

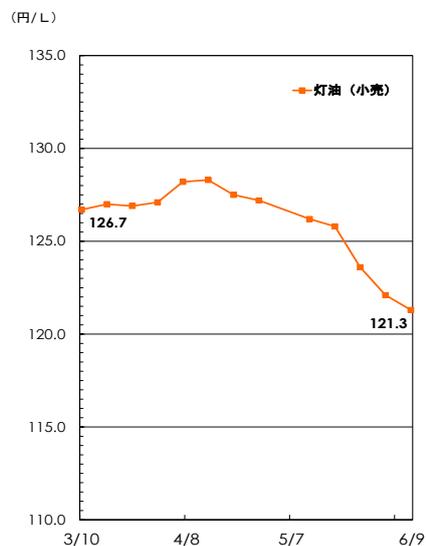
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	6/7	1,834 ▲ 26	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/3 ~ 6/9	77.9 ▼ -3.0	▼ -6.0
価格	(TOCOM/中部)	6/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/9	152.5 ▼ -2.0	▼ -2.0

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	6/7	1,960 ▼ -37	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/3 ~ 6/9	77.2 ▼ -3.4	▼ -4.3
価格	(TOCOM/中部)	6/9	76.0 ▼ -3.0	▼ -5.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/9	121.3 ▼ -0.8	▲ 4.2



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（5月29日～6月4日）のNYMEX・WTI先物市場は、60.79～63.41ドルの範囲で推移した。

当週6月5日は、トランプ大統領と習近平国家主席が大統領再任後初の電話会談、レアアース問題、関税問題とも前向な内容の模様で、問題解決への期待が高まり反発した。ただこの日発表の米国の新規失業保険申請件数は昨年10月以来の高水準で、上値は重かった。7月物終値は、前日比0.52ドル高の63.37ドル。

週末6日は、米国の5月の雇用統計が発表、前月比ほぼ横ばいの内容で、市場予想を上回ったことを好感、米国経済の好調さを印象付け、続伸した。米国株式市場の好調、ベーカー・ヒューズ社発表の米国稼働リグの減少も上昇要因となった。7月物終値は前日比1.21ドル高の64.58ドル。

週明け9日は、米中両国は、ロンドンで閣僚級貿易交渉を再開、合意への期待感が高まり、3営業日続伸、4月中旬以来1か月半ぶりの高値を記録した。合意違反の増産をしていたイラク等が減産するなど、OPECプラスの5月産油量が市場想定を下回ったとの報道で、需給緩和懸念が後退したことも、上昇要因。7月物終値は、0.71ドル高の65.29ドル。

10日は、世界銀行が2025年の世界経済成長率を2.3%と前回1月の見通しを0.4ポイント下方修正、また、米国エネルギー情報局が短期見通しで、世界的在庫拡大で原油価格の低下を予想、4営業日ぶりに反落した。7月物終値は同0.31ドル安の64.98ドル。

11日は、米中両国が10日までの貿易協議で合意に達したことから、世界経済の後退懸念が緩和、さらに、米国イラン間の核合意交渉の難航が表面化、イラン国防相が決裂した場合、中東地域の米軍基地攻撃を示唆、緊張が高まり、大きく上昇、4月上旬以来2か月ぶりの高値を記録した。7月物終値は3.17ドル高の68.15ドル。

### 2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の、6月11日発表の6日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比360万バレル減と、市場予想（同200万バレル減）を上回る取り崩しだったが、ガソリン在庫は同150万バレル増、中間留分在庫は同120万バレル減と、まちまちな内容で、市場に大きな影響はなかった。

EIAによると、6月9日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.9セント安の1ガロン3.108ドル（119.6円/ℓ）と3週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比2.0セント高の1ガロン3.471ドル（133.6円/ℓ）と3週ぶりの値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、6月6日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比9基減の442基となった。

### 3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年06月01日～06月07日に休止したトッパー能力は73.2万バレル/日で、前週に対して7.9万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は227.1万klと、前週に比べ17.0万kl増加。前年に対しては7.7万klの減少。トッパー稼働率は65.6%と前週に対して4.9ポイントの増加、前年に対しては0.3ポイントの増加となった。

## 4 国内/製品在庫量

6月7日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油で積み増しとなり、灯油、A重油、C重油は取り崩しとなった。

ガソリンは194.3万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては3.0万kl多い。

灯油は196.0万kl、前週差3.7万kl減。前年に対しては31.0万kl多い。

軽油は183.4万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては17.2万kl多い。

A重油は71.7万kl、前週差3.5万kl減。前年に対しては3.4万kl少ない。

C重油は170.5万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては7.2万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (6/7)	前週 (5/31)	前週比	
ガソリン	1,943	1,899	▲ 44	(2%)
ジェット燃料	924	878	▲ 46	(5%)
灯油	1,960	1,997	▼ -37	(-2%)
軽油	1,834	1,808	▲ 26	(1%)
A重油	717	752	▼ -35	(-5%)
C重油	1,705	1,724	▼ -19	(-1%)
合計	9,083	9,058	▲ 25	(0.3%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

6月3日～9日のドル建て中東原油価格は前週比値上りし、為替レートはほぼ横ばいで、元売会社の卸値は値上げされたものと見られる。ただ、6/12からの補助金は10.0円(前週比0.6円増額)となり、実質卸価格はわずかに値下がりとなった模様。

## 6 国内/製品小売価格

6月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.1円安の172.2円、軽油も同2.0円安の152.5円、灯油は18%ベースで同15円安の2,183円(1%ベースでも0.8円安の121.3円)。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油も7週連続の値下がり、灯油も7週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりか0県、横ばいが0県、値下がり全47都道府県だった。全国最安値は愛知県の165.1円、その次は埼玉県165.2円であった。他方、最高値は長崎県の182.9円。最も値下がり小さかったのは鳥取県(同0.3円安)、最も値下がりしたのは香川県(同3.8円安)だった。

次回調査時(6/16)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/9)	前週 (6/2)	前週比	直近高値
レギュラー	172.2	174.3	▼ -2.1	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	121.3	122.1	▼ -0.8	08/8/11 132.1
軽油	152.5	154.5	▼ -2.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2025第11号) の公表は、6/20 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。